

専任教員教育研究業績

平成 29 年 5 月 15 日

氏名	ふりがな	所属地区	職 位	性別
萩原 恵里	はぎわら えり	大阪	教授・准教授・講師(助教)	男・♀
担 当 科 目 名				
音楽表現ⅠA、音楽表現ⅠB、音楽表現Ⅱ、音楽表現Ⅲ、 保育実習Ⅰ(保育所)、保育実習指導Ⅰ、保育実習Ⅱ、保育実習指導Ⅱ				
学 歴				
和暦(西暦)年 月	事 項			学位
平成 8年(1996年)4月	京都市立芸術大学音楽学部ピアノ専攻入学			
平成 12年(2000年)3月	京都市立芸術大学音楽学部ピアノ専攻卒業			音楽学士
平成 13年(2001年)4月	ドイツ国立ヴュルツブルグ音楽大学大学院 (Hochschule für Würzburg) 入学			
平成 16年(2004年)9月	ドイツ国立ヴュルツブルグ音楽大学大学院 (Hochschule für Würzburg) 修了			演奏修士
平成 17年(2005年)4月	大阪教育大学大学院教育学研究科芸術文化専攻入学			
平成 19年(2007年)3月	大阪教育大学大学院教育学研究科芸術文化専攻修了			芸術修士
平成 25年(2013年)4月	兵庫教育大学大学院人間発達教育専攻幼年教育コース入学			
平成 27年(2015年)3月	兵庫教育大学大学院人間発達教育専攻幼年教育コース修了			学校教育学修士
教 育 歴 ・ 職 歴				
名 称	期 間	教 育 内 容 又 は 業 務 内 容		
平安女学院大学短期大学部保育学科	平成 17年 4月～18年 3月	非常勤講師(器楽)担当		
神戸常盤大学短期大学部幼児教育学科	平成 20年 4月～24年 3月	非常勤講師(器楽)担当		
兵庫県立西宮今津高等学校総合学科	平成 21年 4月～25年 3月	特別非常勤講師(ピアノ演奏法、ソルフェージュ、ポピュラーピアノ、音楽史)担当		
大阪キリスト教短期大学幼児教育学科	平成 24年 9月～現在	非常勤講師(器楽)担当		
所 属 学 会 等				
名 称	活 動 期 間	活 動 内 容 (役職等の活動を含む)		
日本保育学会	平成 26年～現在	正会員		
日本オルフ音楽教育研究会	平成 27年～現在	正会員		
日本音楽教育学会	平成 28年～現在	正会員		
日本保育者養成教育学会	平成 28年～現在	正会員		
社 会 活 動 等				
名 称	活 動 期 間	活 動 内 容		
加東市、兵庫教育大学連携講座「子育て支援講座」	平成 25年 5月 24日	兵庫県加東市滝野図書館で開催された加東市と兵庫教育大学の連携講座「子育て支援講座・親子ふれあい遊びーわらべうたを中心にー」において、ピアノ伴奏を行った。		
加東市、兵庫教育大学連携講座「子育て支援講座」	平成 26年 5月 29日	兵庫県加東市やしるこどものいえで開催された加東市と兵庫教育大学の連携講座「子育て支援講座・親子ふれあい遊びーわらべうたを中心にー」において、ピアノ伴奏、および独奏を行った。		
第 1 回ヤマハジュニアピアノコンクール審査員	2015年 12月～2016年 2月	大阪狭山市文化会館 SAYAKA ホール (2015年 12月 25日)、大和高田市文化会館さざんかホール(2016年 2月 14日)において、ジュニアピアノコンクールの予選審査員を行った。		

第2回ヤマハジュニアピアノコンクール審査員	2017年1月21、29日	大阪狭山市文化会館 SAYAKA ホール (2017年1月21日)、大和高田市文化会館さざんかホール(2017年1月29日)において、ジュニアピアノコンクールの予選審査員を行った。		
担当教科目に関する資格・免許等				
名称	取得年月	取得機関		
中学校教諭専修免許	平成19年3月	大阪府教育委員会		
高等学校教諭専修免許	平成19年3月	大阪府教育委員会		
子育て支援コーディネーター	平成27年3月	兵庫教育大学大学院		
研究実績に関する事項				
代表的な著書、論文等の名称	単著 共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌又は発表学会等の名称	概要
(著書)				
(学術論文) 1. ガブリエル・フォーレ 主題と変奏 嬰ハ短調作品 73 における一考察	単著	平成19年3月	大阪教育大学大学院教育学研究科芸術文化専攻修士論文	修士演奏で演奏した作品の中からフォーレの楽曲を取り上げ、その楽曲分析を作曲家にまつわる背景を踏まえながら行った。その上で、演奏解釈および、奏法の可能性について考察した。
2. 子どもの遊びにおけるリズムに関する研究—身体的同調に着目して—	単著	平成27年3月	兵庫教育大学大学院人間発達教育専攻幼年教育コース修士論文	集団生活における子どもの遊びのなかで、個々のリズムをもった子ども達がどのようなきっかけで他者とリズムを共有して遊べるようになるのか、その過程において身体的同調が重要な役割を果たすことを前提に事例考察を行い、考察した。
3. 子どもの遊びにおける身体的同調に着目したリズムに関する一考察	単著	平成28年3月	兵庫教育大学幼年教育コース、幼年児童教育研究第28号 P.19~30	兵庫教育大学大学院で提出した修士論文の一部を加筆、修正してまとめたものである。主に、子どもが遊びの中でどのようなきっかけから他者と身体的同調し、その結果、他者とリズムを共有して遊べるようになるのか、その過程には今回のフィールド観察で得られたデータを分析した結果、4つのパターンがみられたことについて論述した。
4. 乳幼児を対象とした親子リトミックワークショップの事例研究	共著	平成29年3月	小田原短期大学研究紀要大47号 P.142~152	兵庫県内の保育所で開催されたイベントの中で行った乳幼児を対象とした一回完結型の親子リトミックワークショップによる調査である。「一回完結型の親子ワークショップ」という特性から、親にとっての「楽しさ」、また、親からみた子どもの「楽しそうに感じる」内容について、事後アンケートや観察記録から分析し、今後の子育て支援における一回型ワークショップのあり方や可能性について考察した。
5. 保育者養成課程のスクーリング「音楽表現」における弾き歌いを中心とし	共著	平成29年3月	小田原短期大学研究紀要大47号 P.218~229	短期間で修得しなければならないスクーリング授業において、受講生が楽曲を多角的なアプローチで学ぶことができるフォルマシオン・ミュージカルの理念を基盤とした授業実践を試みた。その教授法による受講生の学習効果を測るため、事前・事後アンケート調査を行

た学習効果について—フォルマシオン・ミュージカルを基盤として				い、統計分析を行った。その結果、短期間の授業実践において大きな学習効果があったことを示すことができた。
(その他) 1. 萩原恵里ピアノリサイタル	独奏	平成 20 年 10 月	京都青山音楽記念館バロックザール	青山財団助成公演としてピアノリサイタルを開催した。プログラム：ハイドンピアノソナタ第 60 番、ラヴェル「鏡」、フォーレ「主題と変奏作品 73」、メシアン「幼子イエスに注ぐ 20 のまなざし」より
2. 毎日新聞社、大阪アーティスト協会主催 2010 大阪芸術祭・大阪文化祭参加 フランス印象派音楽と絵画の出会い	共演	平成 21 年 5 月	ザ・フェニックスホール	毎日新聞社、大阪アーティスト協会主催による演奏会においてピアノ独奏で出演した。プログラム：ドビュッシー「映像」
3. ピアノとマリimba ジョイントリサイタル～律のしらべ～	共演	平成 23 年 9 月	京都青山音楽記念館バロックザール	青山財団助成公演として、マリimba奏者とジョイントリサイタルを開催した。プログラム：ドビュッシー「版画」、ショパン「アンダンテ・スピアナートと華麗なる大ポロネーズ」、ラヴェル「ツィガース」他
4. 三田市総合文化センター郷の音ホール レジデンシャルアーティストコンサート 2015	共演	平成 27 年 6 月	三田市総合文化センター郷の音ホール	三田市総合文化センター主催によるレジデンシャルアーティストコンサートにおいて、ヴァイオリン奏者の伴奏で共演した。プログラム：愛の挨拶、竹取物語、ひばり、地球のこどもたち他
5. くにたちコンサート	共演	平成 27 年 7 月	豊中市立アクア文化ホール	国立音楽大学大阪同調会主催による 40 周年記念コンサートにおいて、二台ピアノによるラヴェル「ラ・ヴァルス」を演奏した。
6. NHK 神戸第 33 回クラシックスクエア～作曲家 Memorial Year3～	共演	平成 28 年 2 月	NHK 神戸放送局トアステーション	NHK 神戸主催によるクラシックスクエアにおいてモーツァルトのメモリアル作品演奏を担当し、ヴァイオリン、チェロ、ピアノによるモーツァルトピアノトリオ第 6 番を演奏した。
7. 室内楽演奏会	共演	平成 29 年 4 月	茨木生涯学習センターきらめきホール	茨木生涯学習センター主催「室内楽演奏会」において、ピアノ独奏、連弾で出演した。プログラム：ラヴェル「古風なメヌエット」「夜のガスパールよりオンディーヌ」「ラ・ヴァルス」
子どもの遊びにおけるリズムに関する研究—なかなか遊びに入れない子どもの身体的同調過程に着目して—	単独	平成 27 年 5 月	日本保育学会第 68 回大会口頭発表（椋山女学園大学	兵庫教育大学大学院で提出した修士論文の一部をまとめて口頭発表した。本発表では、なかなか遊びに入れない子どもに視点をあて、そのような状況の子どもが遊び場面でどのようなきっかけから自身の気持ちを回復させ、その後、他者と身体的同調し、リズムを共有して遊べるようになるのか、その過程について事例をあげながら発表した。
その他 (表彰等)				